



関目の目

第十号

平成25年7月12日

○風鈴企画が始まったきっかけ



この風鈴企画は今年で3年目となり、風鈴に手紙の要素を組み合わせたのは全国初の試みで、この事業を関目商店街の名物の1つにしたいと考えている。

夏の風情のある風鈴を子供達に身近に感じてもらえることを通じて、大阪市城東区の昔ながらの商店街で、地元の小学生を対象とした地域活性化事業である。

この企画は、風鈴とお手伝いを掛け合わせる事によって、小学生に対してより良いしつかけを促進する目的があり、夏の風物詩である風鈴を作成し商店街に飾る事で地域の繋がりを増やそうと考えたことから始まった。

○171個目の風鈴

この7月7日に雲一つない青空。梅雨は例年より早く明け、快晴の七夕となった。ここ城東区関目商店街は子どもたちの願いが綴られた風鈴が所狭しと飾られており、行き交う人々は足を止め、風鈴の音色に耳を傾けている。

そんな中、商店街の近くに住む、サングラフをかけた男性が歩いてきた。目が不自由らしいが、風鈴の音を聞きつけてやってきてくれたのだった。そして男性が丹精込めて折り紙で作った芸術品を我々に手渡してくれた。

7日の夕方。170個もの風鈴と一緒にその芸術品も飾った。音は出なかったが171個目の風鈴として、今も子供たちの作品と一緒に風に揺れている。

○まとめ



関目小学校1〜3年生74人関目東小学校1〜3年生71人、当日参加25人の計170人の子ども達が開目商店街に足を運んだ。受付を済ませ、汗をかきながら真剣なまなざしでまさらかな風鈴に自分のカラーを付けていった。自分の好きなものを描く子や夏の風物詩を描く子、街並みを表現する子など、私たちがあっと驚くような絵を描いた子ども達。世界に一つだけの自分の風鈴を作り終えた子ども達の顔は、なにか満足げであり、飾られた自分の風鈴から「チリンチリン」と夏の音色が聞こえると、じっと見つめ、かわいらしい笑顔を見せた。才能や可能性に満ち溢れた絵、子ども達の将来が楽しみだ。



発行★関西大学政策創造学部

深井ゼミ商売研究部

米留昇 (0808044917190)

Mail: sh0227-uw@i.softbank.jp

・新井里穂・法心沙也香・高橋理恵